

「どんな本よりも、いのちの大切さを伝えて
下さいました」・・・参加者のこえ

5月17～19日 「かでる2・7」

生命のメッセージ展

主催「生命のメッセージ展」北海道実行委員会



愛する家族へ

僕らは
初めて海を渡り
5月の北海道を訪れた

柔らかなひざしと
快ちよい風

僕らは
いっぱい自然を満喫し
役目を果たす

北の大地に蒔いた
僕らの命の種は



いつか
きっと

ライラックよりも
見事な花を咲かせるだろう

輝け いのち



鈴木共子

「メッセージ展」を終えて

実行委員長 白石区 小野 茂

この話が出ましたのは、今年の2月10日の「北海道交通事故被害者の会」の会議です。毎年の総会の時に講演会を開いていますが、今年の講師に井上様ご夫妻をお呼びしたらという話になりました。そして、井上さんは「生命のメッセージ展」に関係していらっしゃるの、これを機に北海道でメッセージ展を開こうという事になり、言い出しっぺということで実行委員長になった訳です。

その翌日の11日から走り始めました。文書を作って後援を依頼し、行政やその他色々なところを回りました。しばらく走り回ってましたら妻に言われました、「お父さん何でそんなに一生懸命するの？」



と。それで「俺もわからないのだけど、子どもが応援している」と言ったのです。息子は人の命を預かる臨床工学士をしていました。私は息子と同じ仕事は出来ませんが、代わりに命を守る仕事を息子から引き受けたような気がしています。

開催すると息子を知っている人がずいぶん見えられ、言葉をかけて頂きました。「小野さんの息子さんのパネルどこにあるの？」と聞かれました。「実は、パネルを私はたぶん見られないのです。でも、みんなの気持ちがよくわかるから、メッセージ展を開きたかったんだ」と言いました。

メッセージ展を黙って見ていますと、一人一人が一枚のパネルをしっかりと読んでいます。一枚のパネルの中に一人の人生が入っている訳ですね。そして自分にもそういう人生があるのだということに気がついて頂いて、自分の命を大切にしたら、他の人の命も大切にすることではないかと思いました。

亡くなった人は直接訴える事が出来ません。私たち遺族は、その代弁者としてメッセージを送ります。そのことが、その方々の死を無駄にしないことなのではないかと思っています。そういうふうに一生涯懸命行動することが、実は息子の生命が私の中に引き継がれているんだなという気がします。

開催を終えてから、最初に思ったことは「子どもは喜んでくれたらどうか。見ていてくれたらどうか」でした。オブジェへの参加もせず実行委員長を引き受け、意気込みのみで走り始め、3か月の短い準備期間での開催は不安一杯のものでしたが、3日間の来場者は1800名以上、そして一人ひとりが真剣にオブジェを見入る姿は「開催して良かった」と強く感じさせました。

会場へ足を運んだ方が家族で、職場で、学校で「生命」について話し合い考えるきっかけになることが今回の目標でもありました。終了後展示会に足を運んでくれた方、出展者から電話、Fax、手紙などがあり、その目標も達成されたのではと思います。次回を望む声も多くあり、今回をどう生かし発展させて行くか、新たな出発点であると思います。多くの方々に協力を頂き、無事終えることができ感謝申し上げます。

『生命のメッセージ展』に託す想い

「生命のメッセージ展」実行委員会 代表 鈴木 共子

昨年3月に16体でスタートしてから1年ちょっとで、こんなにも大きく成長した「生命のメッセージ展」です。産みの親としては、我が子の誇らしき成長を見る思いがして感激しております。

理不尽に愛する家族を亡くされた遺族の方、またそうではない方もいらっしゃると思いますが、どうぞ共に遺族の方々が語る、亡き愛する家族の代弁者としての想いを聴いて頂きたいと願っています。それぞれお話して下さる方の側には、亡き愛する者がいます。応援してくれることは間違いありません。

今私たちは
無言のあなたがたの想いを
ことばにして
語ってみよう



無念さばかりが
はきだされ
息苦しく
なるやもしれず

涙で声がふるえ
ことばにならないかもしれず

それでも私たちは
あなた方の想いを
伝えねばならぬ

しぼり出すことばの
ひとつひとつが
あなたがたの悲痛の
叫びでもあり
私たちへの慈しみでもある

いとおいしい
いとおいしい
私たちの愛する者よ
さあ、傍らに立ちて
残されし者たちに
魂のことばを
語らせよ

まず息子の事件のことから話させて下さい。

一昨年(2001年)の4月9日、私の一人息子、鈴木零と友人の丹野一平君が歩道を歩いていた所を、飲酒、無免許、無車検、無保険、おまけにスピード違反の暴走車に後ろから

激突され、二人とも殺されました。息子は1年間の浪人生活を経て、憧れの早稲田大学第一文学部に合格し、入学式を終えての事故、いえ事件です。予備校で知り合い意気投合し、生涯の友となるはずであった親友の丹野一平君と共に、夢を語り合いながら、我が家に向かっていく途中の出来ごとです。ちょうどその現場が橋の上で息子は19メートル下のコンクリートの土堤にたたきつけられたのです。

あろうことか息子も一平君も共に母ひとり子ひとりの母子家庭でした。「息子命」とただただ我が子の幸せを願い、我が子のためにとがんばってきた私たち母親から、一瞬にして最愛の我が子が奪われてしまったのです。

零と一平へ

満開の桜が
最初の花びらを
散らせる頃

君たちは
飲酒、無免許の
暴走車に
はねられて
一瞬にして命を奪われた

人生のスタートラインに
立ったばかりで
前途は
まばゆいばかりの19歳

母たちの慟哭の声を
君たちは
どんな思いで聴いたのだろうか

いったい何の役割が

聖書には
「この世に生まれし
すべての人に
役割あり」と
説いている

19才の無惨な死
そこに何の役割が
あるというのか

たとえあるにせよ
我が子の生命
守れなかった
母の絶望は
日に日に
深まるばかり

あまりにむごい
仕打ちの様に
母は神を否定する

犯罪被害者遺族となって様々な理不尽な体験をさせられることになるのですが、一番許し難かったのが、加害者の裁かれる刑のあまりの軽さです。飲酒、無免許、無車検、無保険、スピード違反という悪質の極みのドライバーに科せられるのは「業務上過失致死罪」で、その最高刑がたった5年の懲役だということです。あきらかに、あきらかに殺人なのに、なぜ業務?なぜ過失?納得できませんでした。

遊びで運転しても、無免許で運転しても、何人殺しても、みんな業務上の過失として裁かれると知ったときの驚きと憤りは言葉で言い表せません。後で命とは関係のない「窃盗罪でも最高10年」「詐欺罪でも最高10年」と聞いて、我が耳を疑いました。

生命の重み

地球より重たいはずの
生命の重み
でも
この国の法律では
米粒ほどの軽さしかない
数字なんかで表せやしない
なのに
数字でしか求めることのできない
このもどかしさ

だれが生命の重みを
計ることが出来ようか
神とて至難の技であり
ただただ
我が子の生命の重みを
計ることが出来るのは
生命産み出したる
母ひとり

警察での事情聴取を終えて、事故の衝撃で脱がされ飛ばされた息子の遺品の運動靴を抱えて帰る道すがら、それは風のささやきなのか、私の想像か定かではありませんが、息子の声が聴こえたのです。

「共子さんやってくれよ。あなたなら出来る。俺たちの為に。かけがえのない命のために・・・。」

その時私は決心したのです。理不尽な法律を変えよう。息子たちの死を無駄にしないために。「命の重み」がきちんと反映されるように法律を改正してもらおう。零君や一平君が生きていれば成しえたであろう彼らの仕事としてやり遂げよう・・・。

それが井上夫妻と合流しての「悪質ドライバー」に対する量刑見直しの署名活動です。

署名活動をハードとするなら、ソフトな活動として企画したのが「メッセージ展」です。

思えば、事故後初めてのお正月。辛くて悲しくて苦しくて、ずっと一人部屋にこもっていました。朝からお酒を飲んで、号泣しながら見えない息子に話しかけていました。「なぜ死んじゃったの？なぜ？」と答えのない問答をしていた時、ふとひらめいたのが「メッセージ展」のヴィジョンでした。そしてまた私には聴こえたのです。「共子さん、あなたなら出来る」と。それからアトリエにこもって狂ったように模型を作りました。

それがこんなに早く、そしてこんなに大きく展開していったということは、見えない天国の彼らの大きな力を感じています。開催ごとに参加者が増えていくのは悲しいことですが、理不尽に奪われた命はこんな数ではありません。そして、今この瞬間にも新たな犠牲者が増え続けているのです。

メッセージ展の主役は理不尽に奪われた命たちです。犯罪であれ、事故であれ、いじめ自殺であれ、医療ミスであれ、一気飲ませの犠牲者であれ、いずれもその死の原因を社会問題として考えていかなければならない犠牲者たちです。原因はどうかであれ残された遺族の悲しみ、苦しみは一緒です。

私たちの共通の思いは、亡くなった家族の記憶をいつまでも持ちつづけたい、存在を忘れずに知って欲しい、事件、事故の事実と原因を風化させたくないということです。私たちは亡くなった家族が、人々の記憶から薄れ、忘れ去られることが一番辛いのです。

それが等身大パネルとなって愛する家族が蘇り、新たな生を受けて彼らしか出来ない役割、「命の重み」を伝えるという大事な役割を担って、全国へ旅立つのだというファンタジーは、私たち遺族の慰めにつながります。そこには悲しみを越えて、前向きに生きていこうとする残された家族の精いっぱい姿があるのです。

命

太古より受けつがれし
我が命
ひとりの命の時は
星の輝き
その一瞬の輝きは
生への喜び

命は
奪われてならず
奪ってもならず
自明の理であるはずなのに

今
偏西風によって
命たちの悲鳴が聴こえてくる
気がつけば
足元からも
命たちのうめき声が響いてくる

母の胸に抱かれた
幼い命
明日へのエネルギーを
放出させていた
若い命
頼られる存在として
凜として家族を守る
成熟した命

精いっぱい
自らを輝かせていた命たちが
想像力が欠落させた心が
容赦なく奪い去る
残された者の
嘆きかなしに思いをはせられぬ
愚かな者たちよ

戦争？テロ？犯罪？
交通事故？
Etc. Etc. Etc. Etc. Etc. Etc.
様々な名で呼ばれようと
無慈悲に
命の輝きは消されてしまう

理不尽な凶器がまかり通る
この闇の時代
嘆くばかりでは
命は救えないのだ

命への愛しいつなかりを
身悶えする殺人の
連鎖としてはならない

命の源はひとつ
あなたの命は 他者の命であり
海を超えた彼の地の命とつながる

まずは
あなたの隣の命と手を結び
「命を守ろう」と、伝えていこう

つながれ、つながれ、
いのち

「生命のメッセージ展」で蒔いた
種は
未来の人が刈り取ります

私たちは種の番人
身が結ぶ未来を夢見ています

その実が
未来の人々の
恵みとなるように

つながれ つながれ
いのち

「生命の重み」を伝える
大事な役割を担った
犠牲者たちの
新たな 生命の証し

今 芽生えの時・・・

つながれ つながれ
いのち



※「理不尽に生命を奪われし者からのメッセージ」(5/19「かでる 2・7」)での講演記録から編集者の責任でまとめました


 天国への手紙

健くんが天国に行ってしまったから10年がたちましたね。涙をこらえるのは少し長くなったけれど、思うたび胸がつまります。なぜ健くんが脇見運転にはねられ30日間意識のないまま天国に行かなければいけなかったのか。たくさんの人が歩いているのに、なぜ、何も悪いことをしていない健くんが……。まだ言葉としては一般的ではないけれど「交通殺人」としか言えませんね。

10年たったけれど、お母さんはなかなか強くなれません。でもみんな健くんの分もちゃんと頑張って生きて生きていくからね。また天国で会いましょう。そしてこの次生まれ変わったら、またお母さんの子どもになって下さいね。約束だよ。

この展示の中に、健くんがいたような気がしました。



寄せられたアンケートより

胸が熱くなり、どうして、どう表現していいかわかりません。生きている事だけでも、しあわせなのですね。

小さな悩みに死を考える事もある日があったけれど、今日ここへ来て力を頂いた気持ちです。無念で亡くなったみなさんの分まで生きて行きます。ありがとうございました。(30代 女性)

飲酒、いじめ、スピード違反等で亡くなった方々。警察の対応に怒りを覚えるものも多かったです。

亡くなった方はもう戻ってきません。しかし、加害者はそれを一瞬で忘れ生活しています。許しがたいと思っています。亡くなった方々の分まで生きてください。それは亡くなった人たちと共に生きていくということにもなるでしょうから。(17歳)

私は今、生命のつぐないをしています。加害者でもあり被害者でもある自分。1人でも多く車にのることをやめて歩いて下さい。1人でも全国1を返上しよう、自分に課せられた問題です。

朝いって来ますといったまま帰ってこなかった君！朝ピカピカ1年生の入学の日「おめでとう」の

あいさつに「ありがとう」が返ってこなかったあなた！。おじさんは今、スピードを出さない車をお願いしています。メーカーさんは考えてくれます。

亡くなられた人の衣服や履き物と写真を会場に入るなり見たとたん、息が詰まりそうになりました。大変インパクトが強いです。今後、この活動を通して飲酒運転、無免許運転が少しでも無くなりますよう祈ります。私は無宗教ですが、本当に祈りたいです。(30才代 女性)

いのちって何だろうと思い参加させていただきました。どんな本よりも、いのちの大切さを伝えて下さったと思い感謝しています。

私はうつ病で、私なんか死ねばいいのにとか、消えればいいのにとという言葉が呪文のように頭の中を駆けめぐるような状態のものです。遺族の方々のお話を聞き、自分の母が泣いているところを想像しました。生きていることを感謝したいと思いました。

見ているとすごく辛くなって涙が出そうでした。こんなにも多くの方が「交通事故」で亡くなってたなんて知らなかった。だから私は未来に向かって生きていきます。(小学生 女性)

心にずしんと響きました。交通規則というより人間としてのモラルの無さで人が殺されている！もっといっぱいの人に見てもらいたい。(60才代以上 女性)

大切な人を奪われた家族にとって、「故意ではない」は理由にならないと思います。色々な運動に少しでもお役に立ちたいです。(40才代 女性)

一人の人間の命の重さを強く感じずにはいられませんでしたが、少しでも、今このときから逃げたいと感じた自分に、深く深く反省させられました。

(20才代 女性)



毎日、当たり前のようにテレビ、新聞で報道され、視聴者、読者だけでなく、アナウンサーや記者をはじめとする報道関係者も「またか」という顔になってしまう交通事故。実はその陰で、かけがえのない肉親を失っている。今回は改めて事故の「原点」に立ち返ることが出来たようにも思う。

(20才代 男性)

私 も5歳の時に交通事故で死にかけた事があります。今思ってみればなぜ自分は助かったのかと、今日のメッセージ展を見て思いました。今の時代は交通事故で死ぬ人の他に、いじめや不況の影響で自殺する人も少なくありません。そんな人達の為に私達は何を考え、何をしなければいけないのか真剣に考えるのが、このメッセージ展だと思います。
(20才代 男性)

そ の原因とするところ色々あろうけれど、要するに運転する者の心がけ一つで防げるとするならば、その人間は運転不適格者(欠陥人間と認識すべき)であり、免許は即刻取り上げるべきである。
(60才代以上 男性)

私 は昨年9月に日本へ来たばかりですから、今でも自分の感想を日本語で話せませんが、このメッセージ展に本当に感動しています。私は今日たくさんビデオを撮ってメモをして、自分の国、中国へ文章を書くつもりです。生命のメッセージ展の事を紹介したいです。どうもありがとうございました。
(20才代 女性)

ト ラックは運転者が守られていると思った。本当に小さい命を守る力量のある人にだけ運転して欲しい。
(40才代 女性)

過 去に、ニュースや新聞で知っている事故もあれば、初めて知る事故、感じることは非常に大きいです。私の日頃の持論は「人を殺したら自分も死ぬ」過失であっても十分な刑は受ける。日本の法律の「無期刑」は米国のように終身刑とすべき。日本は悪人に甘い。病的だとか、その人の今後のこと、そんな事は被害者には関係ありません。無くしたものは帰しません。もっと極刑を設けることを希望します。
(40才代 男性)

出 来る限りこういうことを続けて行って欲しい。光らなくなった星達の上に、私達がみんな生きていて事を認識する場として、とっても有意義だと思います。
(高校生 女性)

私 は現在、札幌市内の病院で医療ソーシャルワーカーとして働くかわら、法学部(通信制)の学生でもあります。卒論で犯罪被害者について勉強しています。どうしても理不尽なことの多すぎる今の状況に納得がいかず、自分で調べたいと思ったからです。精神、心神喪失・・・なぜ彼らがそこまで守られて、被害者がそこで終わってしまうのか。被害者は殺され損だなんて世の中は決してあっては

いけないと常に思っています。(30才代 女性)

交 通事故で身内を亡くしました。加害者のドライバーは誠意のある対応をしたと思いますが、それでも遺された者の気持ちは晴れる事はないのです。ドライバーへの恨みは感じることは無くなって、入学するはずだった年になると、成人式の年になると「もし生きていれば」と思わずにいられません。「メッセージ展」に来て驚いたのは、加害者側に全く誠意が無いという話の多さです。家族を亡くした悲しさに加えて、加害者への怒りまでも抱えていらっしゃる遺された家族の方々の気持ちを考えると、本当はいけないのかもしれませんが、怒りの気持ちで心がいっぱいになります。(30才代 男性)

も う少し長く展示して欲しいです。友人を誘いたかったので。(20才代 女性)



右の写真は、7月13日、大森高校の学校祭での「生命の声が聞こえますか?」という展示の一コマです。

メッセージ展に足を運ばれた佐々木晴夫先生の企画です。



会 の 日 誌

《会合など》

- 4月10日 会報8号発行
- 5月10日 第37回例会
- 5月18日 2002年定期総会、講演会
5月17～19日「生命のメッセージ展」
- 6月10日 第38回例会
- 6月24日 臨時学習会(講師:浦野道行氏)
- 7月10日 第39回例会
- 8月9日 第40回例会

《訴えの活動》

「心に響け被害者の声! 100万人講習」など

▲ 4/23 恵庭ハイテクノロジー専門学校

5/14 北広島西高校(佐川)

▲ 4/26 恵庭北高校(小野)

▲ 4/26 苫小牧総合経済高校 5/1 琴似工業
高校定時制 5/23 札幌手稲高校

7/25 中央区安全運転セミナー(前田)

処分者講習での講師

4/25 小野 5/16 内山 6/27 前田 7/25 佐川

